

本時のねらい

・自分のことや自分の好きなことを知ってもらうために、自らが選んだテーマに沿って自分の考えや気持ちを整理し、聞き手のことを考え、まとまりのある内容を話すことができる。

本時における1人1台端末の活用方法とそのねらい

- ・Microsoft PowerPoint を用いることで、発表したい内容のスライド資料を作成し、発表することができる。
- ・1人ひとりのスライドのスクリーンショットを全体で共有することで、他者のスライドを参考に自分のスライドや発表の改善につなげたり、交流したい相手を見つける手がかりにしたりすることができる。
- ・ロイロノート・スクールの生徒間通信機能により、相互評価や感想、アドバイス等を交流し、双方とも保存することができる。

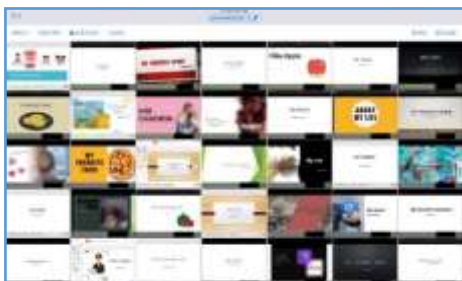
活用したICT機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・iPad
- ・Microsoft PowerPoint
- ・ロイロノート・スクール

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT活用のポイント・工夫
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ○本時のめあてを確認する。 「自らが選んだテーマに沿って、自分の考えや気持ちを間違いを恐れず英語で紹介しよう」 ○この時間で自分ができるようになることや意識することを確かめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までに作成した各生徒のスライドのスクリーンショットを、ロイロノート・スクールで回答共有しておくことで、自分のスライドの参考にしたり、交流する相手を見つける手がかりにしたりすることができる。 <p style="text-align: right;">【写真1】</p>
展開1 (30分)	<ul style="list-style-type: none"> ○発表内容を確認し、用意したスライドを用いて各自練習する。その際、スライドを用いて効果的に伝えられるように、聞き手に分かりやすく伝えるためのポイントも意識しながら行う。 ○班の中で順番に発表し、交流する。 <p style="text-align: right;">【写真2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班のメンバーは、ロイロノート・スクールを用いて、発表者にルーブリックをもとにアドバイス等を書き、発表者に送る。 <p style="text-align: right;">【写真3】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ロイロノート・スクールの生徒間通信機能を活用して、発表者と班のメンバー間でカードをやり取りすることで、自分が送ったカードと受け取ったカードをスムーズに参照・保存することができる。
展開2 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ○交流したカードを活用しながら、発表内容を練り直す。 ○修正が終わった人は、周りで同じように終わった人と発表し合い交流をすすめる。 ○本日の最終版のスライドをスクリーンショットで撮影し、ロイロノート・スクールで提出する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・送ったカードと受け取ったカードを参照しながら、発表内容の改善につなげることができる。 ・共有しているスライドを参照することで、自分が興味のある発表者をさがすことができ、効果的に交流をすすめることができる。 ・スライドを全体共有し、他者の成果物を参照できる状態にしておくことで、自分のスライドや発表内容をより良いものにすることができる。
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ○今回の振り返りと次回の活動を予告し、確認する。 <p style="text-align: center;">(振り返りシートは次回提出)</p>	

1人1台端末を活用した活動の様子



【写真1】ロイロノート・スクールで共有しているスライドのスクリーンショット集



【写真2】班の中で発表している様子



【写真3】班が発表者に対して、内容やアドバイスのカードを送っている様子

児童生徒の反応や変容

- ・全体発表の前に班で端末を活用しながら交流することで、積極的に話したり、内容を聞き取ろうとしたりする姿勢が見られた。
- ・発表後に、聞いていた生徒から自発的に「I have a question!」と言って、生徒どうしのやりとりが見られた。

授業者の声~参考にしてほしいポイント~

- ・できるだけスクリプト（発表原稿）を見ずに、スライドを見ながら発表するよう声かけをしました。その際、英語で話したり、ジェスチャーで表現しながら伝える楽しさや伝わる楽しさを感じたり、相手のようすを見たり、コメントを送りあったりすることで、より良い発表ができるように工夫した。